

1枚あれば会話が弾む 回想新聞のここが面白い！

当時の流行など、若い世代が知らない情報がたくさん

ニュースとは違い“古くならない”新聞だから、ストックして何度も読み返せる

1枚で、何年分もの出来事を読むことができる

文章がやさしくて読みやすい

出来事の事後はあまり書かれていないので、新聞を読んだ後、会話が盛り上がる

回想新聞の楽しみ方

音声で聴いてみよう

2019年(令和元)から、音声版の提供をスタート。「昔のラジオドラマのように聴いてもらえると情景が浮かぶ。紙面を読んだ後でも新鮮に楽しめます」と楠さん。リスナー登録すると最新号が月1回メールで届き、バックナンバーはAmazonのスマートスピーカーなどで楽しめる。「回想新聞 for Alexa」は「Alexa Developer スキルアワード2019シニア部門賞」を受賞。

購読するには？

個人・少人数向けと施設・団体向けがある。お申込みはホームページから



回想新聞社

<https://www.kaisoumedia.jp/>



Alexa Developer スキルアワード2019シニア部門賞



回想新聞を見ながら話すことは、相手の人となりや体験を知るきっかけにもなる。

About

一般紙と同じサイズ、1枚ずつ手に取る号外風の“回想新聞”。紙面を見ると、昭和のニュースがまるで今日の出来事のように並んでいる。この不思議な名前の新聞を毎月発行している回想新聞社の社長、立川市在住の楠信子さんにお話を伺った。2017年(平成29)に創刊して3年、これまで全国各地の読者や介護施設などに累計100万部を発行してきた。

「作りはじめたきっかけは、私自身の経験です。義理の父が認知症になった時、おしゃべりな人だったのに全然話さなくなってしまった。お見舞いに昭和の雑誌とかを持っていくと、『ああ、あの頃はね』と会話が弾んで、今まで主人や義母も聞いたことがないような話が出てきたんです」

楠さんは、昔の思い出を語り合う“回想法”という心理療法の存在を知る。「お義父さんのためだけではなく、もっとたくさんの人に体験してもらいたい」。そう思った楠さんは、最も身近な読み物である新聞から、回想新聞のアイデアを実現させた。

紙面には、思い出を呼び起こすキーワードが数多く散りばめられている。ニュースの事実だけを伝えるのではなく、当時の空気感が味わえるように編集していることが特徴だ。

「当時のことを知っている方と雑談したり、その時代の感覚を掴んでから紙面づくりに取り掛かるようにしています。回想新聞の目的は、“昭和バナシ”をするためのきっかけを提供すること。私自身も義母と往年の映画スターの話で盛り上がったりしています。『回想新聞があることで、祖父母が若かった頃の話が孫が興味を持って聞くようになった』といった声を聞くと、とてもうれしいです」



昭和の話題は子どもには新鮮で、大人には懐かしい。世代を超えて家族の会話を楽しむことができる。

写真提供：ケアハウスすこやかのか、ベイタウンかふぇ

地域の活動

ボランティア、起業、地域のサークルへの参加。出会いと発見が溢れるまちの集いで、新たな取り組みに挑戦してみませんか。

1

創業者
回想新聞

- 立川市 -

あの日を振り返る新聞で、“昭和バナシ”に花を咲かせる。

